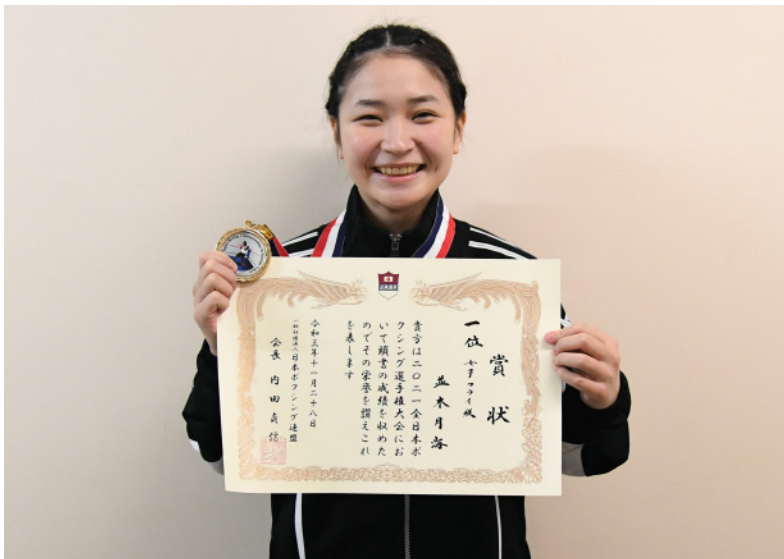


2021 全日本ボクシング選手権大会



なみき つきみ
並木 月海 女子フライ級
3等陸曹

全日本選手権 念願の初優勝



1位の賞状と金メダルに笑顔の並木3曹

令和3年11月24日から28日の間、東京都墨田区総合体育館において2021全日本ボクシング選手権大会が行われた。本大会は新型コロナウイルス感染拡大に伴い2年ぶりの開催となったが、感染拡大防止のため無観客で行われた。

自衛隊体育学校ボクシング班からは秋山佑汰2等陸曹以下男子7名、女子2名が出場し4名が優勝するなどの成果を収めた。

女子フライ(51kg)級に出場した、東京五輪銅メダリストの並木月海3等陸曹は初優勝を懸けて今大会に臨んだ。五輪以外にもロシアの国際トーナメントで2連覇、2018世界選手権で銅メダルを獲得するなど、これまでに8つの国際大会に出場し7個のメダルを獲得している実力者だが、全日本での優勝経験はなかった。

初戦(準々決勝)は、尾関奈津美選手(日本体育大学)との一戦。序盤から安定した戦いを見せ、後半はさらに攻撃を強め圧倒しWP5-0で好発進をきった。続く準決勝も安村可麗選手(芦屋大学)を相手に一步も譲らず、序盤から攻め抜いた並木3曹がWP5-0で勝利し、決勝に駒を進めた。迎えた決勝の相手は木下鈴花選手(日本体育大学)。前半はガードを固めて攻め、後半は得意のステップワークで巧みに攻撃し、5人のジャッジ全員が3ラウンド全てで並木3曹を優勢としたWP5-0の完全勝利で初優勝を飾った。また優秀選手賞にも選出された並木3曹は、試合後「優勝できてホッとしている。」と率直な心境を述べ「来年行われるアジア競技大会ではしっかり金メダルを獲りたい。」と今後の抱負を語った。

王者の貫禄 見せつけ 4連覇



果敢に攻める森脇3曹(右)

男子ミドル(75kg)級には東京五輪代表の森脇唯人3等陸曹が出場した。10月25日から11月5日までの間に行われた世界選手権大会にも出場、隔離期間を経て全日本選手権大会に臨んだ。

初戦(準々決勝)の相手は須永大護選手(東洋大学)。持ち前のパワーとスピードで相手を圧倒し、WP5-0で危なげなく初戦を突破した。準決勝は田中廉人3等陸曹との同門対決となった。お互いに激しい攻防戦を繰り広げたが、森脇3曹が試合を支配しWP5-0で田中3曹を下して決勝進出を果たした。4連覇をかけて臨んだ決勝の相手は近藤陸士長と、またしても同門対決に。近藤士長も健闘したが、森脇3曹がスピードやテクニックで圧倒し、決勝もWP5-0の判定で堂々の4連覇を成し遂げた。

並木3曹と同じく優秀選手賞を受賞した森脇3曹は「最近自分の力を出しきれず国際大会でも結果を残せなかったが、今大会ではやるべきことはやれたと思う。全日本を獲らないと国際大会へのスタートラインにも立てないので、優勝できてよかった。」と大会を振り返り「先輩たちが世界選手権で金メダルを獲ったことに刺激を受けた。次こそは自分が獲りたい。」と意欲的に語った。



最優秀選手賞 初優勝

男子ウェルター（69kg）級に出場した秋山佑汰 2等陸曹も初優勝をかけて今大会に臨んだ。

初戦（準々決勝）は田中空選手（東洋大学）との一戦となった。至近距離での攻撃を狙う田中選手をステップでかわし、テクニックを駆使した秋山 2 曹が WP5-0 で勝利した。続く準決勝の相手は石灘隆哉選手（エイベックス（株））。序盤から自分の距離を保って的確にパンチを当てるなど持ち味を発揮し、WP5-0 で危なげなく決勝に進んだ。初優勝をかけて迎えた決勝、対戦相手である諏訪竜介選手（中央大学）には圧倒的な力の違いを見せつけた。終始試合を支配し続けた秋山 2 曹が RSC（※Referee Stop Contest）2 ラウンド 2 分 53 秒で圧勝し、悲願の初優勝を収めた。本大会初優勝ながら男子の最優秀選手賞を受賞し、全日本選手権を終えた。

秋山 2 曹は「優勝できてよかった。やっとスタートラインに立てたので、今後は国際大会で活躍して世界に名を轟かせられる選手になりたい。」と決意を語った



初優勝と同時に最優秀選手賞に選出された秋山 2 曹



巧みに攻め抜く牧野 2 曹

全日本選手権 初出場 初優勝

男子フライ（52kg）級に出場した牧野草子 2等陸曹は国内外初のタイトル獲得をかけて今大会に挑んだ。牧野 2 曹は中学時代はキックボクシングの全国大会 2 連覇を達成し、高校からボクシングに転向した。

初戦（準々決勝）は対戦相手の滝澤栄吉選手（日本大学）に対し、小柄ながらもリングを大きく使い相手を翻弄した。自分のボクシングスタイルを貫いた牧野 2 曹が WP5-0 で勝利し、準決勝につなげた。準決勝では鈴木丈太郎（駒澤大学）との一戦。的確にパンチを当てながらガードを固め、WP5-0 で危なげなく決勝に駒を進めた。迎えた小田切駿平選手（芦屋大学）との決勝では、自身の小柄な体格を生かしたスピード感のあるボクシングで圧倒し、WP5-0 で初優勝を飾った。

牧野 2 曹は「ボクシングのパンチは苦手だったが、日本一を獲ったことを自信にしたい。駆け引きのなかで自分の一番やりやすいボクシングにもっていった。」と今大会を振り返り「国際大会の出場経験がないので、まずは出場した試合全てで勝ちたい。」とさらなる躍進を誓った。

RSC : Referee Stop Contest / レフリーストップコンテスト

- ①ラウンド開始のゴングで競技ができない場合。
- ②片方の競技者に決定的な差がついている場合や劣勢な競技者が過度な打撃を受けているとレフリーが判断した場合。
- ③ダウンの後、競技を続けられないと判断された場合。
- ④打撃を受けたことによりリング外まで叩き出され、カウント 8 の後に手助けなく 30 秒以内にリングに戻れない場合。
- ⑤リングドクターのアドバイスで DS（デピュティスーパーバイザー）が競技の終了を宣告した場合。

総合成績（メダリスト）

男子



フライ級 牧野草子 2等陸曹（埼玉県）

最優秀選手賞

ウェルター級 秋山佑汰 2等陸曹（大阪府）

優秀選手賞

ミドル級 森脇唯人 3等陸曹（東京都）



ライトウェルター級 富田真広 3等陸曹（静岡県）

ミドル級 近藤 陸 陸 士 長（新潟県）

女子



優秀選手賞

フライ級 並木月海 3等陸曹（千葉県）



ライト級 田口綾華 2等陸曹（兵庫県）



ミドル級 田中廉人 3等陸曹（愛知県）

